

# わくわく田底っ子

第20号

文責：校長 益永 一幸

## 体力テスト～「運動が楽しい」・「体育授業が楽しい」児童を目指して～

今年度5月に実施した「体力テスト」では、3年生以上の市基準値との比較結果がでました。「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の8種目、男女合計64項目中44項目が市基準値を上回りました。特に落ち込んでいる体力要素はなく、全国的なコロナ禍の影響による体力の落ち込みは、本校ではなかったようです。

また、運動に関するアンケートも重要な要素です。本校の児童は、「運動・スポーツをすることが好き」は84.7%、「体育授業が楽しい」が78.6%でした。昨年度よりも少し伸びていましたが、男子の率が高く、男女差があったというのが本校の特徴でした。

体力テストの結果に一喜一憂する必要はありませんが、体力は活動の源であり、健康の維持の他、意欲や気力の充実に大きく関わっており、人間の発達・成長を支える基本的な要素です。子どものうちから体力をつけておくことは必要なことだと考えています。体力をつける出発点は「運動が楽しい・好き」「体育授業が楽しい・好き」という感情だと思います。学校では、この感情を育てるために、体育授業の工夫・運動環境の整備・総合運動部などに取り組んでいます。

現在、体力が落ち込んでいる子どもたちは、都市部よりも田舎の子どもたちだと言われています。ある山間部の学校長が、全体的に体力が落ち込んでいる最大の要因は「スクールバス」利用の児童が増え、歩くことが極端に減った児童が多くなったことだとなげいていました。

田底小では、登校班で全員歩いて登下校をしています。これは、とても重要なことです。先日、6年生の児童数名に歩数計で登校時の歩数を計ってもらいました。西宮原地区の児童「約2600歩」、芦原地区の児童「約3600歩」、慈恩寺地区の児童「約3500歩」でした。学校でも、外に出て元気よく遊んでいる子どもたちです。1日で一万歩は軽く超えていると考えられます。

また、少しの雨でも歩いて登校することで、体力向上だけでなく、危険を予測し判断する能力が身につきます。雨の時は車で送迎ではなく、保護者の「愛情のある覚悟」をお願いします。

### 10月21日（土）は運動会

今年度も、自分たちの運動会を成功させようと張り切っています。6年生を中心とした応援団、低・高学年部の表現を計画的に練習しています。

運動会のスローガンも決定しました。5日には「結団式」、13日から「全体練習」があります。

運動会を通して、運動に親しむ態度、安全で規律ある行動、責任感や連帯感が高まっていくことを目指して、子ども一人一人が輝く田底小の運動会にしていきたいと思います。

